

DPC導入の影響評価に係る調査項目及び評価の視点（平成16年度）

	調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
	(診断群分類の妥当性)			
1-1	○ 診断群分類の該当率	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、類似のDPCで1日当たり点数が高く、かつ、在院日数の基準日が高い群へのシフトがないか。	○	診断群分類別件数（平成14・15・16年）
1-2	○ 診断群分類の構成割合	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、診断群分類点数表による請求額と医科点数表に基づく出来高算定との差額が大きい診断群分類に該当する患者の割合が低下していないか。（ばらつきの多い診断群分類の該当率が低下し、ばらつきの小さい診断群分類の該当率が増加していないか。）	○	MDC毎の作業班
		○ 包括評価制度の導入前後を比較して、同一疾患群における出来高算定と包括算定の割合が変化していないか。	○	MDC毎の作業班
		○ 高齢者などのハイリスク患者の率が低下していないか。	△	MDC毎の作業班 ※「ハイリスク」の定義が必要。
1-3	○ アウトライヤーの状況	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、特定入院期間を超える率や出来高点数と包括点数の乖離が一定以上の率が変化していないか。	○	MDC毎の作業班
1-4	○ 包括範囲点数及び在院日数のばらつき	○ ばらつきの原因として、年齢、重症度、看護必要度などの患者特性、地域特性（後方病院の整備状況等、他医療機関との連携状況）、病院の管理体制（退院基準の設定状況）が影響していないか。（小規模な聞き取り調査の実施とその結果を受けた大規模調査を検討。）	△	医療連携と退院後受療に関する調査 ※ どのような地域特性、病院の管理体制を勘案するか。場合によっては追加調査を実施することが必要。
1-5	○ DPC変更率、変更理由	○ 合併症の増加によるDPCの変更が増加していないか。	△	※ 請求した診断群分類の変更の状況は把握可能。 (別添1)

把握の可否：「7月から10月の退院患者に係る調査」「特別調査」で把握できる場合に「○」、
集計にあたって検討が必要な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「-」を記載

	調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
	(診療内容の変化等)			
2-1	平均在院日数（診断群分類別、MDC別、医療機関別、診療科別等）	<input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、相対的に在院日数が短かった病院における入院日数の延長がないか。 <input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、在院日数に応じた評価の基準日数までの入院が増えているか。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	病院別在院日数（平成14・15・16年） （別添2）
2-2	病床利用率	<input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、在院日数の短縮化が進む中で、病床利用率が変化していないか。	<input type="radio"/>	（別添3）
2-3	入院・外来比率	<input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、入院・外来比率が変化していないか。	<input type="radio"/>	アウトカム評価・臨床指標／医療機能の変化に関する調査
2-4	入院経路、退院先	<input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、在院日数の短縮化が進む中で、入院経路、退院先が変化していないか。	<input type="radio"/>	入院経路・退院先の状況（平成14・15・16年）
2-5	退院時転帰（入院中死亡率等）	<input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、在院日数の短縮化が進む中で、退院時転帰（入院中死亡率等）が変化していないか。	<input type="radio"/>	転帰の状況（平成14・15・16年）
2-6	退院後転帰	<input type="radio"/> 在院日数の短縮化が進む中で、退院後の退院先での転帰が変化していないか。	<input type="radio"/>	※ 今後、保険者側からの調査などにより把握可能か検討予定。
2-7	再入院率	<input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、短期間で再入院した患者の率が増加していないか。 <input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、同じ疾患または続発症により再入院した患者の率が変化していないか。 <input type="radio"/> 包括評価制度の導入前後を比較して、予期しない再入院が増加していないか。	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	再入院率に関する調査 再入院に関する調査 再入院に関する調査
2-8	他医療機関への再入院の状況	<input type="radio"/> 術前化学療法などの計画的な入退院が影響していないか。 <input type="radio"/> 他の医療機関への再入院が増えているか。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	再入院に関する調査 ※ 今後、保険者側からの調査などにより把握可能か検討予定。
2-9	転院先医療機関従事者満足度	<input type="radio"/> 転院先の医療機関における医療従事者の満足度が変化していないか。	<input type="radio"/>	医療連携と退院後受療に関する調査

把握の可否：「7月から10月の退院患者に係る調査」「特別調査」で把握できる場合に「○」、
集計にあたって検討が必要な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「－」を記載

	調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
2-10	○ 薬剤・医療材料の使用状況	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、薬剤、医療材料の使用状況が変化していないか。 ・ 包括評価制度の導入前後を比較して、γグロブリン製剤、制吐剤、ステロイド剤等の使用状況が変化していないか。 ・ 包括評価制度の導入前後を比較して、高額な抗がん剤の使用状況が変化していないか。 ・ 適応外使用の状況がどうなっているか。	○	医薬品・医療材料に係る調査
2-11	○ 検査・画像診断等の実施状況	○ 後発医薬品の採用状況がどうなっているか。 ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、検査等の実施状況が変化していないか。 ・ 包括評価制度の導入前後を比較して、画像診断、病理組織検査、時間を要する高度な検査の実施状況が変化していないか。 ・ 包括評価制度の導入前後を比較して、外来にうつせるような、他医療機関で実施できるような検査、投薬の実施状況が変化していないか。(特定の診断群分類について評価することを検討。) ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、中心静脈注射による高カロリー輸液療法の実施状況が変化していないか。 ○ ハイリスク患者、または重症例の過小診療が行われていないか。合併症、併存症に対する治療が適切に行われているか。転科して治療を行う率が低下していないか。 ○ 手術等の出来高となっている診療行為の実施状況が変化していないか。	○ ○ ○ ○ ○ ○ △ ○	医薬品・医療材料に係る調査 医薬品・医療材料に係る調査 医薬品・医療材料に係る調査 ※ どのように適応外使用を把握するか 医薬品・医療材料に係る調査 検査・画像診断に関する調査 MDC 毎の作業班 検査・画像診断に関する調査 (別添4) ※ ハイリスク、重症例の定義をどうするか。 (別添5)

把握の可否：現在実施している7月から10月の退院患者に係る調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「ー」を記載

	調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
2-12	○ 医療の達成度、患者満足度	○ 主治医の入院目的の達成度が変化していないか。 ○ D P C 毎の退院基準の設定状況がどうなっているか。 ○ 患者満足度が変化していないか。 ○ 化学療法などが外来にシフトしたことによって、患者の QOL などが変化していないか。	○ -	医療の達成度・患者満足度に関する調査 医療の達成度・患者満足度に関する調査 (本項目については、現時点では評価のためのデータの収集が困難)
2-13	○ アウトカム評価、臨床指標	○ 手術の成功率、外科手術における再手術率、救急外来受診率、5 年生存率が変化していないか。 (本項目については、現時点では評価のためのデータの収集が困難ではないかとの意見があった。)	△	医療の達成度・患者満足度に関する調査 アウトカム評価・臨床指標／医療機能の変化に関する調査
2-14	○ 看護の必要度	○ 看護の必要度が変化していないか。(既存のデータの活用も検討。)	○	看護の必要度に係る特別調査

把握の可否：現在実施している 7 月から 10 月の退院患者に係る調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「-」を記載

	調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
	(医療機関の機能の変化)			
3-1	○ 高度医療の提供実績	<input type="checkbox"/> 高度先進医療、臓器移植、治験の種類と数が変化していないか。 <input type="checkbox"/> 新医療技術の導入が阻害されていないか。包括評価導入後薬価基準に新たに追加された薬剤の使用が阻害されていないか。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	アウトカム評価・臨床指標／医療機能の変化に関する調査 MDC 毎の作業班
3-2	○ 教育研修機能	<input type="checkbox"/> 教育研修機能が変化していないか。	<input type="checkbox"/>	アウトカム評価・臨床指標／医療機能の変化に関する調査
3-3	○ 地域医療との連携状況	<input type="checkbox"/> 地域医療との連携状況の違いに地域特性が影響していないか。	<input type="checkbox"/>	医療連携と退院後受療に関する調査
3-4	○ 医療の質に関する取り組み	<input type="checkbox"/> 院内委員会の設置状況はどうか。 <input type="checkbox"/> クリニカルパスの数と適用数はどう変化するか。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	アウトカム評価・臨床指標／医療機能の変化に関する調査 アウトカム評価・臨床指標／医療機能の変化に関する調査
3-5	○ 医療の提供体制	<input type="checkbox"/> 組織、マンパワーが変化していないか。 <input type="checkbox"/> 看護師比率などが変化していないか。(在院日数が短くなった医療機関を重点的に調査することを検討)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	アウトカム評価・臨床指標／医療機能の変化に関する調査 アウトカム評価・臨床指標／医療機能の変化に関する調査

把握の可否：現在実施している7月から10月の退院患者に係る調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「-」を記載

DPC変更率

	15年度		16年度	
データ数	300733		313974	
分析対象数	111591		112100	
DPC変更	あり	なし	あり	なし
件数	18972	92619	19155	92945
%	17.00%	83.00%	17.09%	82.91%
分析対象外	189142		201874	

※様式5の集計

※DPCを2ヶ月以上に渡って算定していた患者が対象。

※DPC病院82病院を対象。

※平成15年度のDPC導入時期に合わせて平成16年度も同様の時期に合わせて集計。

※様式5にエラーがあったものは分析対象外。

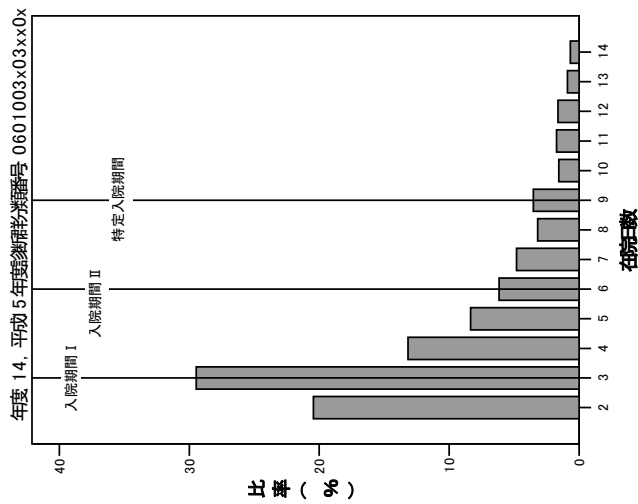
DPC変更率と副傷病ありとの関係

	15年度						16年度					
分析対象数	111591						112100					
DPC変更	あり			なし			あり			なし		
件数	18972		92619				19155		92945			
%	17.00%		83.00%				17.09%		82.91%			
DPC13桁(算定終了時)	x	なし	あり	x	なし	あり	x	なし	あり	x	なし	あり
件数	9566	3978	5428	55696	22832	14091	9861	3320	5974	57801	20309	14835
%	8.57%	3.56%	4.86%	49.91%	20.46%	12.63%	8.80%	2.96%	5.33%	51.56%	18.12%	13.23%

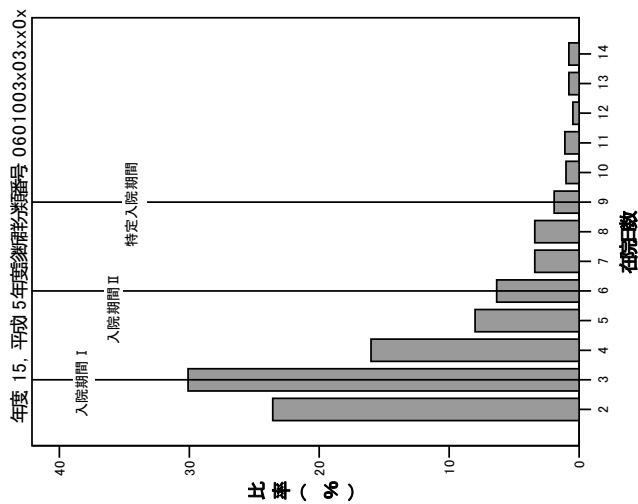
※算定終了時の様式5における、DPC13桁目(副傷病の有無)の集計

在院日数に応じた評価の基準日数までの入院

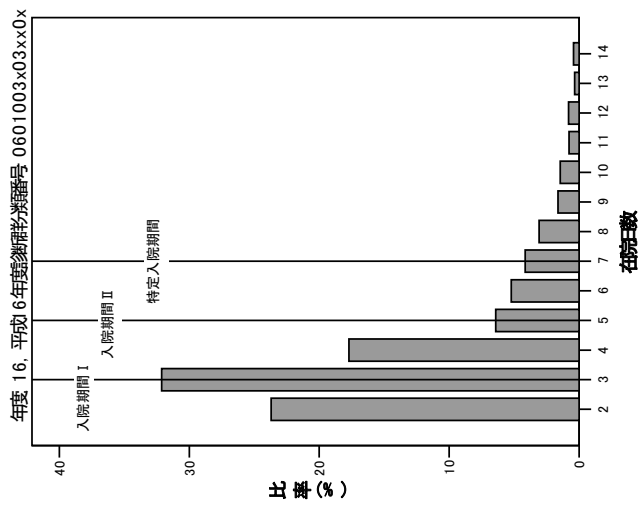
0601003x03xx0x:小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。) 内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 その他のポリープ・粘膜切除術等 副傷病なし



平成14年度平均在院日数:5.23日



平成15年度平均在院日数:4.64日

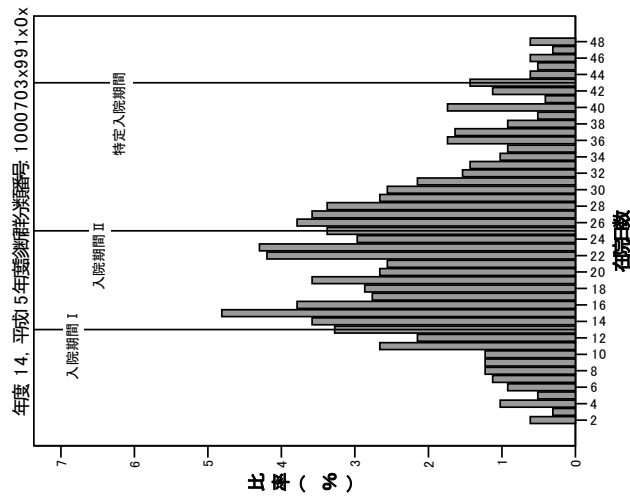


平成16年度平均在院日数:4.37日

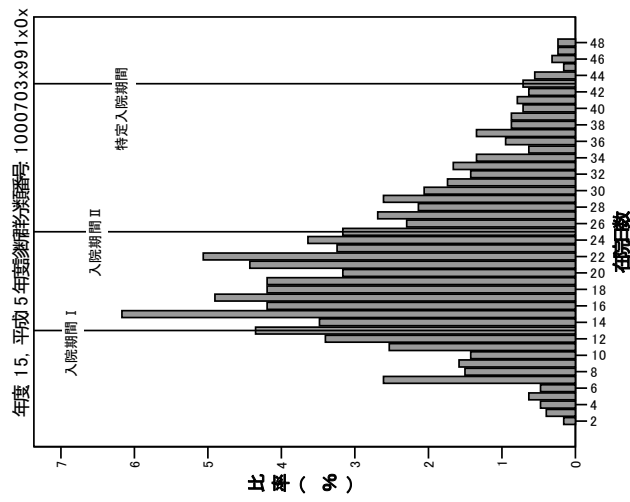
※1.特定機能病院等82病院対象
 ※2.平成16年度于一々のうち、平成16年度DPCの件数の多いもの対象(うち、平成15年度と16年度の包括対象DPCで診断群分類の内容に変化が無いもの対象)

在院日数に応じた評価の基準日数までの入院

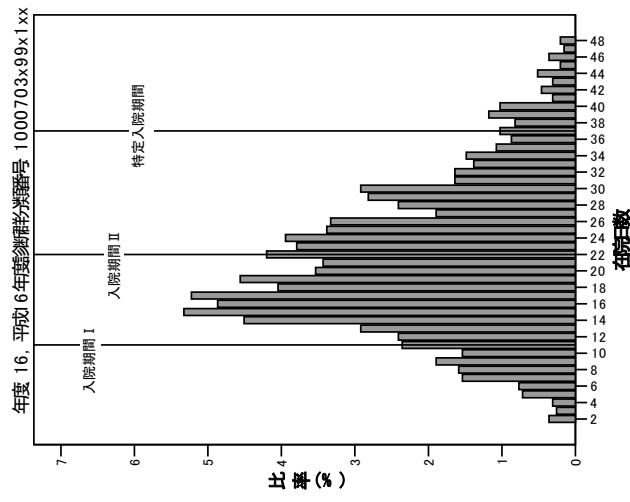
1000703x991x0x:2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)手術なし処置等1あり副傷病なし



平成14年度平均在院日数:25.82日



平成15年度平均在院日数:22.73日

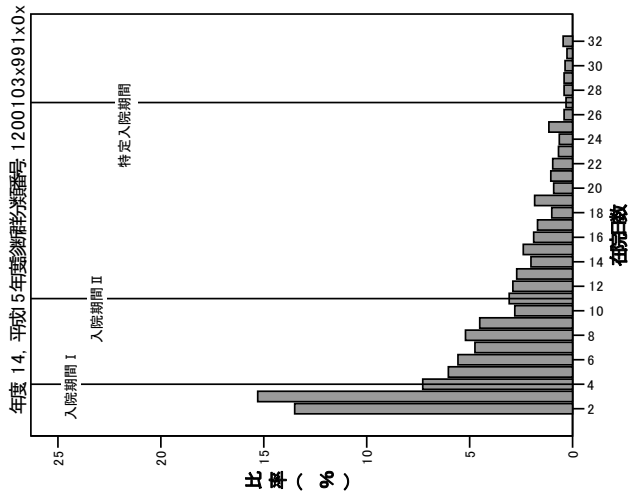


平成16年度平均在院日数:23.39日

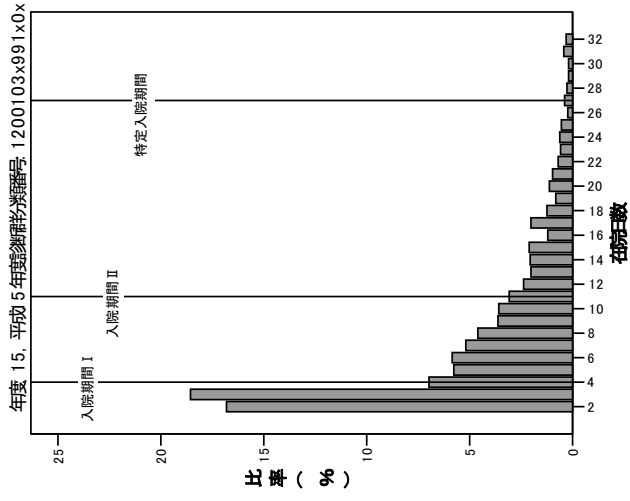
※1 特定機能病院等82病院対象
 ※2 平成16年度データのうち、平成16年度DPCの件数の多いもの対象(うち、平成15年度と16年度の包括対象DPCで診断群分類の内容に変化が無いもの対象)

在院日数に応じた評価の基準日数までの入院

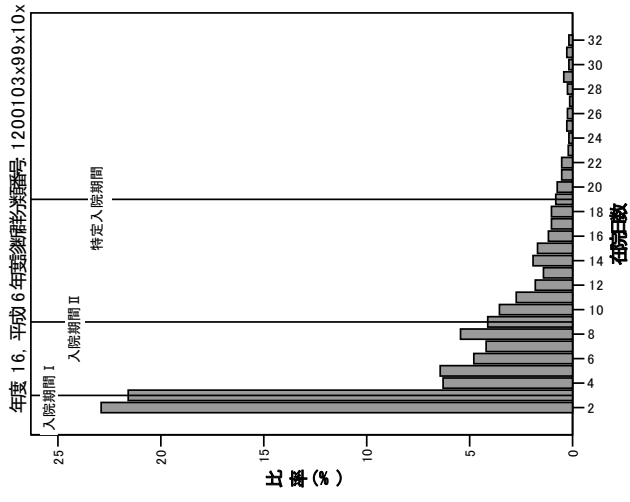
1200103x991x0x:卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 処置等1あり 副傷病なし



平成14年度平均在院日数: 12.64日



平成15年度平均在院日数: 10.66日



平成16年度平均在院日数: 8.09日

※1 特定機能病院等82病院対象
 ※2 平成16年度データのうち、平成16年度DPCの件数の多いもの対象(うち、平成15年度と16年度の包括対象DPCで診断群分類の内容に変化が無いもの対象)

一般病床の稼働病床数及び病床利用率

病院名	平成14年		平成15年		平成16年	
	稼働病床数	病床利用率(%)	稼働病床数	病床利用率(%)	稼働病床数	病床利用率(%)
札幌医科大学医学部附属病院	933	83.1%	933	80.7%	933	75.5%
北海道大学医学部附属病院	851	87.3%	851	84.5%	884	84.4%
旭川医科大学医学部附属病院	569	85.9%	569	84.7%	569	77.3%
弘前大学医学部附属病院	571	86.7%	577	84.6%	577	84.6%
岩手医科大学附属病院	947	88.1%	966	82.1%	966	79.1%
東北大学医学部附属病院	1198	83.6%	1198	81.2%	1198	80.1%
秋田大学医学部附属病院	580	86.2%	574	88.9%	580	83.4%
山形大学医学部附属病院	564	86.7%	564	85.1%	564	82.1%
福島県立医科大学附属病院	744	85.5%	744	85.3%	753	82.7%
筑波大学附属病院	759	84.7%	759	83.0%	759	81.2%
自治医科大学附属病院	999	89.7%	1034	84.9%	1034	86.4%
獨協医科大学病院	1140	92.6%	1138	87.0%	1170	89.8%
群馬大学医学部附属病院	656	81.3%	665	86.8%	656	88.1%
埼玉医科大学附属病院	1246	78.9%	1246	86.0%	1241	87.0%
防衛医科大学校病院	774	77.9%	774	74.3%	774	72.2%
千葉大学医学部附属病院	775	83.7%	768	84.6%	775	78.8%
東京慈恵会医科大学附属病院	1024	86.9%	984	87.3%	992	84.6%
東京医科大学病院	1047	87.6%	1048	80.2%	1058	79.7%
東京女子医科大学病院	1345	90.0%	1367	84.6%	1358	93.7%
慶應義塾大学病院	1041	88.0%	1036	89.4%	1041	91.0%
日本医科大学付属病院	1116	90.6%	1114	88.9%	1077	90.5%
順天堂大学医学部附属順天堂医院	1005	91.9%	1005	90.9%	1005	89.7%
昭和大学病院	885	87.5%	879	91.1%	863	92.6%
東邦大学医学部附属大森病院	901	92.3%	901	86.0%	872	87.8%
日本大学医学部附属板橋病院	986	86.8%	988	88.3%	988	86.1%
帝京大学医学部附属病院	1107	87.4%	1107	85.4%	1107	89.7%
杏林大学医学部附属病院	953	90.8%	952	91.3%	965	86.9%
国立がんセンター中央病院	600	91.8%	600	92.2%	600	91.3%
東京医科歯科大学医学部附属病院	708	88.1%	757	72.0%	709	82.8%
東京大学医学部附属病院	1150	82.4%	1150	88.3%	1150	90.0%
北里大学病院	1090	80.2%	939	91.2%	971	85.3%
東海大学病院	928	79.0%	928	91.6%	928	89.1%
聖マリアンナ医科大学病院	1155	87.5%	1148	88.8%	1154	86.6%
横浜市立大学医学部附属病院	562	86.3%	562	89.3%	562	88.4%
新潟大学医学部附属病院	706	85.3%	706	80.5%	746	76.5%
富山医科薬科大学附属病院	569	87.5%	569	87.2%	569	86.1%
金沢医科大学病院	877	81.6%	917	85.6%	863	86.8%
金沢大学医学部附属病院	786	88.2%	786	84.2%	786	81.2%
福井医科大学医学部附属病院	559	84.1%	559	81.9%	559	75.0%
山梨医科大学医学部附属病院	566	85.3%	566	84.6%	566	83.6%
信州大学医学部附属病院	640	86.7%	646	87.9%	646	87.0%
岐阜大学医学部附属病院	569	84.2%	569	84.0%	569	68.9%
浜松医科大学医学部附属病院	576	84.0%	576	81.1%	576	78.1%
名古屋市立大学病院	772	88.6%	772	88.3%	772	81.0%
藤田保健衛生大学病院	1475	82.2%	1471	79.2%	1475	78.0%
愛知医科大学附属病院	1197	69.2%	1135	74.3%	1012	72.6%
名古屋大学医学部附属病院	985	80.5%	985	81.3%	985	78.5%
三重大学医学部附属病院	700	81.4%	691	86.0%	691	78.9%
滋賀医科大学医学部附属病院	563	82.4%	563	79.0%	563	77.8%
京都府立医科大学附属病院	823	89.4%	817	87.4%	831	79.7%
京都大学医学部附属病院	1107	83.8%	1107	80.7%	1107	79.0%
大阪医科大学附属病院	988	77.6%	985	80.4%	985	76.3%
関西医科大学附属病院	952	88.8%	944	85.1%	952	86.7%
近畿大学医学部附属病院	1077	94.1%	1078	89.6%	1078	86.3%
大阪市立大学医学部附属病院	969	84.5%	969	89.4%	969	90.6%
国立循環器病センター	640	87.8%	640	88.8%	640	89.4%
大阪大学医学部附属病院	1024	85.0%	1024	83.9%	1024	81.4%
兵庫医科大学病院	1104	77.2%	1104	74.6%	975	77.0%
神戸大学医学部附属病院	874	68.8%	874	75.7%	874	78.4%
奈良県立医科大学附属病院	730	94.1%	730	88.2%	825	85.3%
和歌山県立医科大学附属病院	760	89.5%	760	89.1%	760	86.2%
鳥取大学医学部附属病院	644	89.8%	644	88.5%	644	87.0%
島根医科大学医学部附属病院	576	85.8%	577	85.6%	576	82.6%
川崎医科大学附属病院	1160	66.6%	1084	70.0%	941	76.1%
岡山大学医学部附属病院	805	82.2%	803	82.2%	846	84.0%
広島大学医学部附属病院	709	85.6%	680	84.3%	720	84.9%
山口大学医学部附属病院	699	84.8%	699	83.5%	699	80.4%
徳島大学医学部附属病院	611	87.4%	605	86.1%	651	85.1%
香川医科大学医学部附属病院	587	84.8%	587	80.4%	587	80.7%
愛媛大学医学部附属病院	566	80.6%	566	81.1%	566	84.1%
高知医科大学医学部附属病院	566	87.5%	566	87.6%	570	80.5%
福岡大学病院	855	79.5%	793	84.7%	786	85.4%
久留米大学病院	1228	82.6%	1168	83.4%	1168	81.8%
産業医科大学病院	578	85.8%	578	88.9%	578	87.5%
九州大学医学部附属病院	1148	82.1%	1101	86.9%	1182	80.7%
佐賀医科大学医学部附属病院	585	85.5%	585	85.0%	585	82.1%
長崎大学医学部附属病院	766	85.0%	766	83.0%	797	82.8%
熊本大学医学部附属病院	800	81.0%	793	83.6%	793	82.1%
大分医科大学医学部附属病院	574	89.7%	574	86.6%	574	79.3%
宮崎医科大学医学部附属病院	576	87.5%	576	88.2%	576	93.6%
鹿児島大学医学部附属病院	627	82.3%	627	82.9%	667	81.3%
琉球大学医学部附属病院	550	86.9%	550	87.6%	550	85.8%
計※※	68138	84.8%	67721	84.6%	67718	83.6%

※ 稼働病床数は、各年7月1日現在

※ 病床利用率＝1日平均入院患者数(前年7月1日～当該年6月30日の1年間の平均)÷稼働病床数 ×100

※※ 計については、岐阜大学を除く値

(保険局医療課調べ)

中心静脈注射実施件数の年次推移

施設類型	中心静脈注射なし件数			中心静脈注射あり件数			合計			実施割合		
	平成14年	平成15年	平成16年	平成14年	平成15年	平成16年	平成14年	平成15年	平成16年	平成14年	平成15年	平成16年
DPC病院	226,805	258,766	276,989	20,687	22,457	19,440	247,492	281,223	296,429	8.36%	7.99%	6.56%
試行的適用病院		108,400	119,834		5,906	5,734		114,306	125,568		5.17%	4.57%
調査協力病院		17,919	18,755		742	744		18,661	19,499		3.98%	3.82%

- ※1.エラーデータ等除外
- ※2.未入力値、対象外値は除外
- ※3.DPC病院では、平成14年から平成16年の3年間中心静脈注射が出現した施設を対象。
- ※4.試行的適用病院、調査協力病院は、平成15年、平成16年の2年間で中心静脈注射が出現した施設を対象。

別添4

主要手術実施件数の推移

別添5

K0821(人工関節置換術(肩、股、膝))				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	2133	2428	2414	6975
試行的適用病院		588	586	1174
調査協力病院		63	74	137
合計	2133	3079	3074	8286

K2824(白内障手術、超音波摘出術)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	10017	10535	11565	32117
試行的適用病院		3132	3533	6665
調査協力病院		545	619	1164
合計	10017	14212	15717	39946

K283(眼内レンズ挿入術)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	11175	11887	12918	35980
試行的適用病院		3726	3793	7519
調査協力病院		560	663	1223
合計	11175	16173	17374	44722

K6552(胃切除術(腹腔鏡(補助)下によるものを含む悪性腫瘍手術)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	1593	1648	1677	4918
試行的適用病院		593	569	1162
調査協力病院		111	107	218
合計	1593	2352	2353	6298

K672-2 (腹腔鏡胆嚢摘出術)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	1287	1381	1347	4015
試行的適用病院		895	974	1869
調査協力病院		160	138	298
合計	1287	2436	2459	6182

K8881(子宮付属器腫瘍摘出術(両側)開腹によるもの)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	1745	1719	1858	5322
試行的適用病院		746	645	1391
調査協力病院		112	175	287
合計	1745	2577	2678	7000

※エラーデータ等除外

※DPC病院 82病院、試行的適用病院 62病院、調査協力病院 20病院